

# 小児科

## 長期入院生活に於ける一乳児の看護

発表者 三村 智富美

小児科一同

### 1. はじめに

### 2. 症 例

♂ 45年3月29日生 1才2ヶ月

### 3. 看護上の問題点とその実際

#### (1) 精神的発達遅延に対して

##### ① 遊び

おもちゃ

音楽

鏡

水遊び

##### ② 情緒面に対して

環境

マスクについて

模倣

#### (2) 身体的発達遅延に対して

##### ① 運動発達の遅れについて

赤ちゃん体操

##### ② 日光浴、外気浴について

##### ③ 栄養について

### 4. 結 び

### はじめに

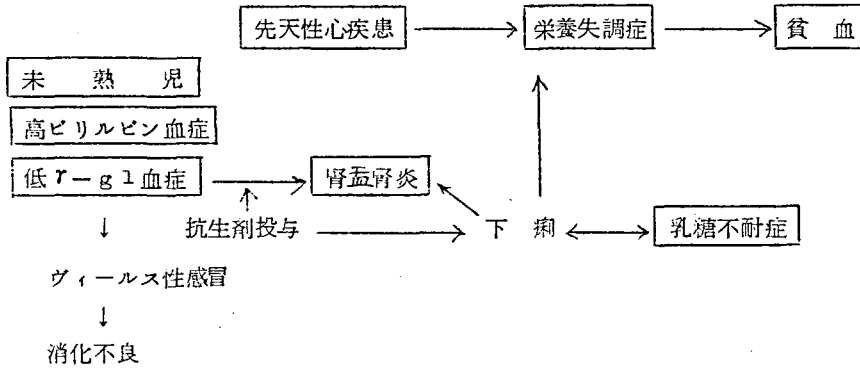
乳児期1年間の育児はあらゆる面で、一生の90%の運命を決定するという書を見ることもある。当科未熟児室入院患児で、生后1年余を過ぎ、負っている種々の疾患の為に余儀なく病院生活を送る一乳児の看護を考えた時、母親の愛情と養護を要する大切な時期に、1日3交替勤務、11人の看護婦が入れかわり立ちかわり替る時、他の乳児と同じ日課で看護してゆくことに皆、疑問を感じ、大切な成長過程の援助について症例患児の看護に於ける保育面を中心に考えてみた。

### 症 例

山梨県在住、父28才 母22才で共稼ぎ、♂45・3.29骨盤位にて出生、第1子、1700gの未熟児にて仮死1度あり、生後4日目黄疸強度となり高ビリルビン血症にて交換輸血を受ける。

生後間もなく粉乳により著しい腹満、下痢があり体重増加も悪く、山梨で諸々の医院をまわされ  
 8 4 5.7.9 当科紹介され入院となる。当科入院後も粉乳により激しい下痢、嘔吐を主症状とする第  
 二次性乳糖不耐症があり大豆乳のボンラクトを飲む様になり改善される。又生後2ヶ月より心雑音  
 も指摘され先天性心疾患の診断を受ける。感染もしやすく、時々湿疹から膿疱を作り6ヶ月より遷  
 延する腎盂腎炎、その他気道感染からくる消化不良症、不明の発熱があり、低r-g l血症と診断  
 される。又先天性心疾患、度々の消化不良症、多様な抗生剤投与により下痢等からくる栄養失調よ  
 り貧血もあり1才2ヶ月を迎えた現在、腎盂腎炎の治療をしつつ経過を見ている。

表B 〔患児の原病と合併症の関連性〕



表C 〔未熟児室の勤務と患児の24時間〕

	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
呼吸測定	クおべ	おむ	おむ	おむ	検おむ	おむ	おむ	探おむ	おむ	おむ	おむ	おむ	おむ	検おむ	おむ	おむ	検おむ	おむ	おむ	おむ	おむ	おむ	レボ
交換	つ乳	つ乳	つ乳	つ乳	温つ乳	温つ乳	つ乳	つ乳	つ乳	つ乳	つ乳	つ乳	温つ乳	つ乳	つ乳	つ乳	温つ乳	つ乳	つ乳	注つ乳	注つ乳	注つ乳	ト
清掃	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	交換	ト

3. 看護上の問題点とその実際

症例の中で述べた様に患者は原病からくる種々の合併症を引きおこし、こうした悪循環の中で精神的、身体的にも著しい発育遅延がみられ、月令1才2ヶ月の現在、遠城寺式乳幼児分析的発達検査表では、発達指数50~57%と低く、又発達年令も7~8ヶ月を示す。

病気に対する治療面を考慮しつつ、その遅れを少しでもとり戻すことができたらと精神面、身体面に重点をおいて考えてみた。

(1) 精神的発達遅延に対して

## ① 遊 び

- イ、おもちゃ…生後7ヶ月まで保育器に入ったり、コットにでたりのくり返して、おもちゃも保育器に入っている時は上に動物のおもちゃを置いて動かしてやる程度でしたが、その後コットに移ってからは他の児と同様、歯がため、ガラガラ、赤いくまのおもちゃ、上から吊すビニールの動物、オルゴールを与えた。以上は常備してあるおもちゃを上から吊したり、交換してやったりして使用していたが、患児が成長するにつれてやはりおもちゃの選択の必要性を感じ、衛生的で洗いやすく安くてこわれにくい物の与え方を考えてみた。10ヶ月ころより体温計を非常に好み検温時うっかりしていると腋窩より引き抜いて遊んでいる。取り上げようとして他のおもちゃを与えても決して見向きもしないという所から単純な長い棒を持たせてみた。発泡スチールでできている棒は軽く握み易く興味を示す為此にマジックで色をつけて与えてみた。これには深く関心を示し棒と他のおもちゃを同時に2ヶ与えても必ず棒を選んでおりベットの端に転がっていても自分から取りに行き遊ぶ程です。又紐、色のついた紙を与え破かせることもあきずに遊ぶが、押せば鳴る小さい動物、ラッパまりの如きき既成のきれいなおもちゃには余り関心を示さず、単純な、形のない物の方を喜んでいる。只入院時よりおいてあります赤いセルロイドの熊のおもちゃは大好きでいつもいじったり、なめたり動かしたりしている。おすわりがしっかりでき、そのまま身動きできる1才を過ぎると上から吊してある酸素の鎖をいじって遊ぶ為、鈴、おもちゃを上から吊してやると喜んでいじっており、吊してある為落す心配もなく洗う必要もないことは汚染について気を配らなくともよく工夫の1つかと思ふ。又1才過ぎてかなり乱暴なとり扱いを喜ぶ時期になると単なるだっこでは行動範囲も限られあきてしまう。椅子に坐らせ背につかまらせて動かしてやると初めはしっかり握ったきりの手も回を重ねるうちに、手をはなす様になり後で押すナースをふりかえり満足そうに笑う余裕まででてきた。又一見して奇妙な顔の小人のおもちゃは異様な感じを持つのか傍に持ってゆくと恐がり恐怖心を表す。
- ロ、良い音楽を聞かせる…子供は音楽が好きです。暫くオルゴールを聞かせているうちにじっとうれしそうに聞き入りその内に眠ってしまうという例もあった。時にはオルゴールを流しているとじっと聞き耳を立て、鳴り終ると何か探している様子を示した。がオルゴールはいつも同じ曲を奏で時間的にも短く種類も二種類きりない為、カセットテープを利用し童謡を哺乳時、睡眠時に流す様にした結果歌が始まると体を揺すってカセットテープの方を見て楽しそうな動作には我々もほほえまざるを得ません。又ナースが歌ってやるとさもおかしそうに笑ひ音楽に対する反応は非常に大きいと見ている。
- ハ、鏡に対して……1才になった時ベットの端に鏡をおいた所、初めは無関心であったがナ

ースと一緒に見せてやった後、一人でじっと不思議そうに見つめていたが日が経つにつれ語りかける様に鏡を見て「ア—ア—」と言っている姿も見られる様になった。

ニ．水遊び…汚れた手を洗ってやる時水に対しての最初の不思議そうな様子から面白がって水の中で手を動かす様になったのが1才1ヶ月、それからは洗面器にぬるま湯を入れてやるとビチャビチャ水遊びを楽しむ様になり衣服の方まで濡れぬ様注意しつつ短時間遊ばせる様になった。

② 情緒面に対して

イ．最初できるだけ多くを語りかけスキンシップをしてやりたいと11ヶ月頃ベットの位置も詰所から目が届き、未熟児勤務のナースが居なくとも人の動きや詰所からあやす人の見える位置にベットを移した。その結果やはり患児にとって多くの人の動きや表情をとらえることができ、いつもかわいがって抱いてくれるドクターをガラス越しに発見した時は声を上げて喜ぶ程の発達を見る様になった。

ロ．マスクについて…病院で育つ児は言語発達が遅いということから室を出て患児のみと接する沐浴、日光浴の際にできるだけマスクをはずして接する様に努めた。初めは動く口を見てきょとんとしていたが8ヶ月ころマスクをはずしてやるとにこにこし1才ころでは室内でマスクをしていると一度は手をかけてとろうとし、はずしてやるとそれで安心するかの様子も見られそれだけ情緒面が発達したものと見てよいと思う。

ハ．模倣…1才ころまでは勤務者個々に適当に「イナイナイ」「バイバイ」「オイヤ」を教えていたが、統一して同じ事を同じ動作で教える方針でまず「バイバイ」から始めたがわずか手を挙げるかの様な動作するのみでなかなか自分から手を振ろうとせず。他の事に關しても覚えようとしないう現状ですがナースが首を傾けたりするとその通りまねする動作は1才ころより始まっている。又患児のベットの近くに行くと手足をバタバタさせて喜ぶだけであったが最近ではナースが室に入るとすぐに手をさし出し、しきりにだっこをせがむ様になり甘える表情もでてきた。

表E 精神発達

	患 児	正 常 発 達 段 階
4ヶ月	凝視 追視 あやすと笑う 音のする方を向く 喃語	支えがあるとおすわり 追視 母親がわかる 音の方向を正しく判断
5ヶ月	シーツ・ガーゼなどを口に持ってゆく 人形をみつめる	感覚相互の結びつきがうまくゆく
	おもちゃで遊ぶ 他の赤ちゃんを連れてゆく袖など	手にする物を口に持ってゆく ガラガラを持ちかえることができる

6ヶ月	ひっぱりお話しをする 引きおこし反射(2m位) 頭を持ち上げようとする	「イナイイナイパー」でよろこぶ 手足をバタバタさせて大よろこびする
7ヶ月	名前を呼ぶとふりかえる 人が近づくとよろこぶ 体温計をおもちゃにする	助けられると起きあがる 一人でおすわり 人見知りをする 「怒り」「嫌悪」「恐れ」が分化 大人のする動作をまねることが活発
8ヶ月	おもちゃを見せると自分でとる 部屋を出ようとするとき悲しそうに泣く 足をすりあわせるような運動 哺乳瓶を自分でもってのむ さくにつかまっておすわり	助けがあると立ちあがることのできる
9ヶ月	腹臥位で頭を持ちあげる 右手に持ったものを持ちかえる おすわり2~3分	家具につかまりだち 乳児の芸当「イヤイヤ」「ニギニギ」「オ ツムテンテン 声の内容、理解されていないが、大人の声 を聞いてまねをする
10ヶ月	おすわり5分 「イナイ イナイ パー」でよろこぶ	はいはいする乳児の芸当
11ヶ月	おすわり5~10分 ねがえりできる	手を引かれると足を交互に運ぶ 指先だけで小さなものをつかむ 理解力発達
12ヶ月	おすわり20分 体操いやがる 鏡を見て笑う 歌をうたうとおかしそうに笑う	自分のほしいものをとりに行く 「マンマ」を言うようになる 家具をひっぱって立ちあがる
13ヶ月	おすわり長くできる	低い階段一つ二つよじのぼる
14ヶ月	おすわり1時間 3~4秒支えて立つ ↓1分 ミルクをスプーンでのむ	1人で立ちあがる

(2) 身体的発育遅延に対して

① 運動発達の遅れについて

生後11ヶ月頃体操試みるも嫌がり、丁度時を同じくして発熱、消化不良症により暫らく中断していたが再開する。運動発達に著しい遅れが目立ちおすわりにつかまっておすわりできたのが7ヶ月、一人でかなり長時間おすわりできたのが11ヶ月、寝返りも11ヶ月で完全にできる様になるが、筋力特に下肢の力が弱くハイハイもできない為、足を中心とする赤ちゃん体

操を始めた。

#### 赤ちゃん体操

1. 脚の運動      ○膝の屈伸及び開閉      ○足首の屈伸及び回転
2. 両手を持って引きおこしお坐りさせる。
3. 両手を持ってお坐りから立たせる。
4. 両手を持って静かに吊り上げ足が床から離れたら静かに下ろす。
5. 総合的な運動

以上の体操を組み合わせて毎日10分間位2回行い計画だったが、初回に患児の疲れが見られ以後その時の状態に応じて5～10分間行い。膝、足首の運動だと患児も喜びのうちにでき声を立てて笑い程で数日後には屈曲時にかなりの抵抗があり力がついてきた感がある。手首を持って引きおこし立たせる立ちの練習になると恐がって泣き腰が立たず足に力が全然入らなかったが、3日目頃より引きおこして3～4秒立ちでき、日を追う毎に足の力もしっかりして力を入れてふんばる様になる。ナースも号令をかけ声をかけて励まし乍ら行い、いつしか患児もズボンをとるとわかるのか足をバタバタさせて喜ぶ様になる。この頃になるとお坐りも長くでき人の動きを不思議そうにながめている姿が見られる。柵につかまり立ちさせても腋窩まで柵にかけてぶら下る様にして立てるのみで体がくの字型になりすぐお尻をついてしまう。運動開始1週間後に水様下痢便おこし一番進んだ運動も逆もどりを見たが、ようやく開始後12日目には手首を持ってのつかまり立ち1.5～2分可能となり我々の喜びとする所である。15日目には柵にもたれて4～5分立てるが頭だけ垂れてしまい苦しそうにしている。20日目手につかまり5分位立てるが一人立ちはまだまだ無理で恐怖心も強く少しでも手をはなそうとするとしっかりしがみついて手を離そうとせず。しかし寝ていてはベットの柵で足をかけて反動で向きを変えベット中あちこち動いている。又腹臥位にて手をつき柵をおこし隣りの部屋にいるナースをのぞこうとしたり片手でおもちゃをとろうとしており腕力はかなり強いがまだハイハイはできず。

#### ② 日光浴及び外気浴について

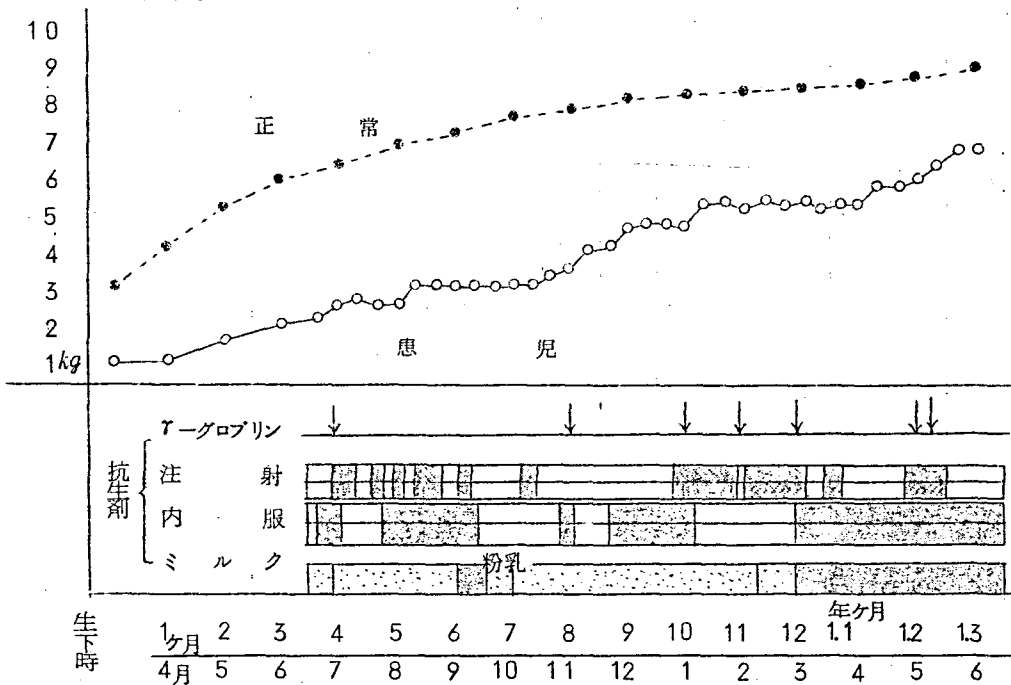
今まで沐浴時、体重測定時にガラス越しにわずか太陽に当るのみでほとんど直射日光に当たらず、又1才2ヶ月で骨の未発達もあるが、これまで日光浴するには風も強く寒さと又低r-eg 1血症にて感染症おこしやすく感染防止の点から積極的に日光浴をすすめることが不可能だったが運動開始と並行して日光浴の効果を充分考え風のない暖かい日を選んで最初はガラス越しの太陽を当て徐々に直射日光から外気浴に持って行った。場所的な関係も考えて当直室を利用して広い場所でのハイハイの練習も兼ねてみたが慣れない環境の為か泣いてしまい失敗に終る。しかし外気浴の際には見る物全てが珍しく全く新しい体験でオートバイ、車等動く物に対して深く興味を

示し目を凝らして見ていた。

③ 栄養について

当科入院前より下痢があり十分な栄養補給できず体重増加も悪く当科入院後も乳糖不耐症による激しい下痢、嘔吐あり哺乳力も低下してカテーテル栄養も併用しボンラクトにて便性の改善がみられたが、再び粉乳にすると下痢便みられ11ヶ月頃までボンラクトを続けている。9ヶ月頃果汁開始するも匙、味、臭いに慣れず味を考え毎日果汁を種々変えてみるも2匙与えるのにも苦勞する程嫌っている。一週後に又下痢便となり果汁も中止する。11ヶ月より粉乳とボンラクトの混合栄養を始め初めは1日5~6回ボンラクト、1回粉乳であった。粉乳のみで与えると飲みも悪く哺乳量の低下もあるのでボンラクトの味をそのまま生かす為、ボンラクトの中に粉乳を混合して味の変化をなくし1日1回から徐々に粉乳の濃度を高くして回数も増しついに17日目には粉乳の切りかえに成功している。この間に離乳食開始するも便性悪く4日間にて中止している。以後粉乳にて続けているが離乳食への移行を考え最初匙をおもちゃ代りに与えて遊ばせ匙に慣れさせようとしたが匙はもちろんのこと、おもちゃ類も口に持ってゆこうとせず。しかし哺乳びんは患児から要求して手にするとすぐ口に入れて飲んでいる。今匙にて哺乳練習しているが最初はしっかり口を結んでしまったり、だらだらこぼしてしまったが一時抵抗なく20~30ml位まで飲む様になったが再び余り喜ばずかなり抵抗示したり気分にとでもむらがある様に思われる。

表D 体重曲線



#### 4. 結 び

以上の如く患児は心身共に遅延し、又疾病回復の予測も立たぬまゝ1才を過ぎた今、感染に対する抵抗力も少しずつつく中で腎盂腎炎が落ちついたら両親の下に帰そうという話もでている。両親が遠方の為に面会回数も限られ又ガラス越しの面会であり医者と看護婦に育てられホスピタリズムな乳児になっている。このホスピタリズムを少しでも軽くしようと業務スケジュールのぎっしりつまった中で計画的にすすめることは困難なことであったがこの患児に遅れ乍らも精神、運動発達、情緒において人並みの成長をしてほしいと心から願ひ病院で育った為のハンデいを少しでも軽くする様に努力した結果、患児の日毎に進歩成長する姿に医師と共に看護婦の大きな喜びとなっている。尚母親の経験のない看護婦一同、会場の皆様方に何か参考になる御意見を聞かせていただければ幸いと存じます。

## 神経科

### 新病棟移転後一年の経過と考察

発表者 山本宏子

神経科一同

過去別棟に設置され独自の環境の中で生活してきた神経科病棟も、45年5月より現在地に移転一般科と殆んど変りない環境の中で生活するようになりました。しかし移転当時、今迄長い期間別棟での生活をしてきた患者さん又、看護者が、患者の心理面、管理面でいくつか懸念される事項がでてきました。移転後もできるかぎりの自主性を持った生活ができるように、2,3の試みがなされました。最近の患者さんの表情が明るいとか、動作がのびのびしているとか、患者さんの質が変ってきている等新しい病棟に移ってから特にそう感じると意見がでました。病棟へ移ったことで患者におよぼす影響を考え、テーマを考えてみました。院内職員に、又患者及びその家族について行ったアンケートの一部も報告し考察を述べたいと思います。

#### 発表順序

1. 病棟移転時における懸念事項
2. その実際と反省
3. 移転後における問題点
4. 病棟日課の面での試み
5. アンケートの結果(1部)
6. 考察及び反省